

第21号
発行日 平成9年4月5日
発行所
東京青山同窓会事務局
〒151
渋谷区幡ヶ谷1-7-4
深津ビル4F
TEL 03-3378-6616
発行者 坂井 俊一

東京会報

東京青山同窓会
東京青山同窓会年間維持費
1口1,000円2口以上(年間)
会計幹事 岩原 昭(53回)
振込先
さくら銀行 神田支店
普3485843 東京青山同窓会
郵便振込口座 00150-9-4074

平成8年度 東京青山同窓会総会報告

ご挨拶



東京青山同窓会会長
齋藤伸雄(44回)
春も愈々酣、皆様
お元気に御活躍のこ
とと存じます。春の
陽光に若い息吹を

感ずる季節になりました。

学校の裏の砂丘でひばりの声を聞き
乍ら真っ青な天空をじっと見つめ、深淵
にして無限の未来に思いを馳せ、若い
胸を躍らせた事もありました。卒業して
丁度60年、その頃の事が古い友人達の
顔と共に懐かしく想い出されます。

東京青山同窓会も年々発展し、現在
会員数約5000人を数え、今春は第104回
の卒業生を新会員に迎えようとしており
ます。東京青山同窓会は若き日の想い
出や輝かしい将来を語り合える同窓交
歓の場として今年も活発に活動して参り
ます。会報の発行、総会開催の外、先輩
を講師に迎えての政治、文化等の講演
会と懇親会、毎年6月の新人歓迎会開催
など、幅広い年齢層の会員が顔を合わ

せ、肩を組んで「玲瓏の天…」や「百里
流れて信濃川…」を共に唱う機会を充実
させたいと考えています。奮って御参加、
御協力をお願い致します。

東京青山同窓会の益々の発展を期待
して御挨拶と致します。



平成7年度決算報告及び8年度予算

収入の部(千円)

費目	7年度決算 H7/10/1~H8/9/30	8年度予算 H8/10/1~H9/9/30	備考
前年度繰越金	18	702	
年会費	2,761	3,600	1,800名×2,000
総会々費	1,189	1,600	200名×8,000
新人歓迎会費	555	590	OB 70名×7,000 新人 50名×2,000
広告料	900	0	
本部補助金	300	300	
協賛金	78	150	100件×1,500
講演会費	240	350	70名×5,000
合計	6,041	7,292	

支出の部(千円)

費目	7年度決算 H7/10/1~H8/9/30	8年度予算 H8/10/1~H9/9/30
総会費	1,344	1,600
新人歓迎会費	573	600
事務局費	120	350
講演会費	353	500
会議費	231	350
通信費	1,250	1,500
印刷費	1,399	1,500
予備費	0	100
振替手数料	69	100
次年度繰越金	702	692
合計	6,041	7,292

60回(昭和27年)卒——MUZO会有志 PR 第1回



海外旅行開発株式会社
OVERSEAS TOUR PROMOTION INC.
〒105：東京都港区新橋3-16-12 横山ビル
TEL：03-3433-5544 FAX：03-3436-6633

代表取締役 高城英雄
美術部OB

お陰様で、皆様の旅作りひとすじに
25年を迎えることができました。

○海外・国内旅行をご用命ください。
旅の親睦会：アピオンクラブ会員募集中



新しい映像 たしかな技術
株式会社 クリエイティブジャパン

〒107：東京都港区赤坂3-17-8-401 土橋園ビル
TEL：03-3584-1043 FAX：03-3584-5509

代表取締役 益子恒徳
美術部OB (業界歴35年)

“新しい映像と、たしかな技術”を
弊社のモットーとして、クライアント
の皆様から要請された映像作品を製作し
納入しております。

○企業PR映画・ビデオ製作



印刷デザイン・コンサルタント
株式会社 アートランド

〒162：東京都新宿区中町15 神楽坂M406
TEL：03-3269-7014 FAX：03-3269-7135

代表取締役 金山常吉
美術部OB (東洋美術学校講師18年)

1954年より、グラフィックデザイン業
に従事。東京青山同窓会会員各位のお引
き立てにより先端デザイン活動を行って
おります。

○自費出版もご相談ください。

【総会報告】

事務局長・佐藤邦雄(75回)

恒例の東京青山同窓会総会は、11月15日午後6時より、東京大手町、サンケイホールにて開催されました。今回は、82回の三澤薫さんに司会をお願いし、会長の44回斎藤伸雄氏の挨拶に続き、名誉会長36回斉藤英四郎氏から、アメリカの自由の女神はフランスがフランスの独立記念100周年を記念して「自由」をテーマに贈られたこと、独立記念200周年は、日本の淡路島に「コミュニケーション」をテーマに記念碑が贈られたことなど、誰もが知っているようで知らないお話しをしていただきました。幹事長64回坂井俊一氏の会務報告、会計幹事53回岩原昭氏の会計報告と会は進行いたしました。懇親会に入り、新潟からの御来賓上村光司青山同窓会会長、佐藤義雄新潟高校校長よりご挨拶をいただきました。その後旧制校歌、新制校歌斉唱と続き、いよいよ幹事苦心のアトラクション「ビーブロス」という漫才コンビが登場。彼らはBSNでレギュラー出演をしたこともある人

気上昇中のコンビです。新潟弁も結構うまく、久しぶりに懐かしく思われた方もおられたと思います。しかし、そのコンビを食ってしまったのが我が東京青山同窓会82回の学年幹事西山活子氏の進行でのジャンケンゲームでした。全員が100円玉を1枚ずつ握りしめ隣の人とジャンケンをし100円玉を争奪していく単純な勝ち抜きゲームですが、西山活子氏の司会の面白さとゲームの楽しさが相まって何と盛り上がったことか！最後に新潟から出席された関根彰圓元新潟高校ラグビー部監督がさすがの勝負強さで勝利を収めました。青陵祭の一場面のような童心に還ったひとこまでした。最後は恒例の応援歌での締めくりです。46回富所強哉氏の歌声が響く中、三々五々と皆さん家路につかれました。

毎年、何か心に残るアトラクションをと探しています。何かご推薦がありましたらご提案ください。(ただし予算はタイトです。)例年11月に総会を開催しております。ただ会費を納めるだけではなく、参加してコミュニケーションを図っててください。新潟からのご参加もお待ちしております。

寄稿

「思い出」 内山惇一(27回)



1915年頃、郷里中蒲原郡庄瀬村から新潟市へ行くには、村の東側に流れる信濃川を汽船安進丸で2時間半程下るか、もしくは小須戸町で川を渡り国鉄矢代田駅から沼垂駅へ行くかの2つしか方法が無かった。安進丸は、船腹の両側に大きな水車を回して進むというのどかさで、真ん中が機関室、前後に畳敷きの2つの部屋が在り60名位は乗れた。大郷、鷺巻、酒屋などの船着き場が兩岸に在り、下りの船は、船首を上手に回してから着岸するというのんびりぶりだった。どこから乗り込んできたのか、明荷を担いだヤシと呼ばれる男が股引などを並べて叩き売りの口上を張り上げていたかと思うといつの間にやらどこかへ消えてしまうというような事も川蒸気の名物であった。汽船のことを川蒸気と呼んでいた。新潟では万代橋終点の手前の白山浦で下りた。鍵富邸、県議事堂、白山神社を左手に、右は裁判所、医専の運動場から学校町通りの一本道、右側には北興社書店支店、次いで県立女学校(現県立中央高校)、それから天神様とか関屋小学校が在ってわが中学である。

中学は白ペンキ塗りの木柵で囲まれ、中央校門には学校名の木札があった。門前の「高木」という駄菓子屋は今でもよく覚えている。学校の前方は一面の田圃で百メートル程先に信濃川の堤防が見え、硫酸会社が鼻を突く悪臭煙を吐いていた。学校の上手は関屋へ行く緩い上り坂で、念仏寺やその裏の豚小屋位しか当時建物は無く森閑たるものでした。裏手はすぐ松林、それから低い砂山が二つ、その先は防砂すだれが二、三段あって百メートルの砂浜であった。新潟港の方へ行けば測候所、ついで師範学校があり、日和山となります。左手は砂丘の陰に豚小屋が点在し、程なく競馬



場の本柵であった。学校の北側は裏の砂山へ続く小径で、途中にロスケパンと呼んだ小屋が一つ。まことに荒涼閑静の風景であった。校舎も寄宿舎も木造二階建て、校庭には松の木が植えられていた。成程、男の子と杉の木は育たないといわれた土地らしい模様であった。ただし、裏の校庭の片隅にボブラ並木があったことも記憶している。

中学は各学年150名だったので、全校700の健児と言う事になり、「霞棚引く青山の」と威勢の良い合唱となった。

時の校長は、小平高明で県では数少ない奏任官待遇で堂々たる体格ぶりだった。式日の講堂にナポレオン帽を二つ折りにして小脇に抱え、金モールの礼服に式刀を腰に入場する様は見事な偉丈夫ぶりであった。校長には生徒の顔姓名を記憶する特技があった。何の時間でも教室に入ってくる。体操の時間も良く現れたりして学年の終わり頃には殆どの生徒の名前を知っていた。修身の補講が大好きで、記憶に残る講義であった。その日の課題は「建設と破壊」だ。どういう意味か？と全員に聞いたが全員の答えを駄目だという、そして組み立とぶち壊しだと教え込まれた。また「黒という色の種類は？」と聞かれて全員落第。答えは、一番薄い黒は瓶のぞき、一番濃いのが殿様黒と教えた。へそかいと何やら面白い話しても聞いた心持ちだった。寒い冬の午後、天神様辺りの焼き芋屋で焼き芋を新聞紙に包んでの帰り道、下校する小平校長がやってきた。緑に赤線の入った制帽をとり、停止敬礼である。すれ違いざまに「内山、美味しそうだな、冷めないように急げ」と一本やられた。こ

の校長マラソン好きで、当時のオリンピック選手の金栗四三を招いたり、全校マラソンで白い兵児帯をしめて大野までの全行程をも完走した。当時は愛知一中にも日比野というマラソン校長がいて評判だった。私はこれが大の苦手。関屋をスタート、校門前を白山浦へ。物産館と白山様の間を右折すれば程なく堤防の一本道だ。何とか脱走と思った途端、白い兵児帯の小平校長が「内山、さあ一緒に走ろう！」と並んでしまう。平島辺りで苦心惨憺、何とか落伍。落人の苦勞が偲ばれたものだ。

四年生の時小平校長は仙台一中へ。後任は短軀禿頭の三根円次郎校長となった。短い体にステッキを振り回しての姿は立派とは申されず、我らは直ちに立派な渾名を奉ったものだ。三根校長は、英才教育方針で全生徒を成績順に甲乙丙と三分した。だから腕白の面白い連中は丙に集まった。乙組に居合わせた私は新学年の度に、机を引きずって甲へいったり、乙に戻ったりしたが、お陰で仲間が増えた。この三根校長の俸が後年ジャズで名を高めたディック・ミネその人である。泣くな妹よとか何とか、我々音痴の先輩の耳にも流れてきたから面白い。

1940年頃、所用で釧路への途中、小平校長を思い出して仙台で降り、駅的人力車に小平校長を訪ねるとすぐに分かって案内された。玄関へ出て私を見るなり、やあ内山か、よく来た、優等生は時々やって来る。先日も住木(論介君のことだろう)が来てくれたが、お前位の奴(成績のことだろう)が来てくれたとは珍しい、よく来てくれたと喜んでくれた。昔

に変わらぬ風情で心和む一時であった。さて辞去して玄関を出れば外はもう暗色である。思わず「先生、外はもう殿様黒になりました。といえ言下に「そうか、覚えていたか」と顔を見合わせて何々大笑した。

さて、同窓会の誌上に、水上卯吉、斎藤澄丸君等の名前が出なくなった。27回の同窓はどうか誌上で顔を見せて欲しい。どんぐり山のガマ仙人中野文夫君はどうしている？

内山氏の文に寄せて

上村光司(50回・同窓会会長)

同窓会報には、年会費を頂戴した方のお名前をのせていますが、随分と前から変わらずのトップに位置していらっしゃるのが第18回(明治44年)の玉木繁治さんです。次が第23回(大正6年)の樋口正さん、三番目が第26回(大正9年)木村耐七さん、続いて第27回(大正10年)の内山惇一さんとなって、いずれも東京圏ご在住です。超大先輩に毎年会費を頂戴するのはありがたく、また申しわけない思いであります。それやこれやあって、先頃東京同窓会事務局の佐藤邦雄さん(75回)にお会いして、お礼言上かたがたご消息を調べていただいたところ、内山さんから玉稿を寄せて来られました。

拝見して、その記憶の正確さはもちろん、達意の文章には感嘆した次第です。第50回卒の私には、文中の固有名詞は大体そのまま分かりますが、若い皆さんにはいかがでしょうか。あえて注釈無しで読んでいただきます。



榎木酒造株式会社
新潟市内野町582
榎木 尚一郎 (67回)

さらりと美しいな
新潟名酒



日本
凌



伊藤酒造株式会社
〒950-21 新潟市内野町53-5
Tel. 025-262-2008

伊藤哲夫 (75回)

同期会の報告

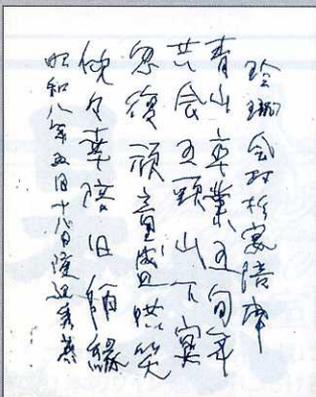
「我が学年も」という方がいらっしゃいましたら、事務局まで原稿をお寄せ下さい。

58回同期会「玲瓏会」

東京幹事・細貝実(58回)

58期卒業生の同窓会は玲瓏会と名付けてまして地元新潟と東京で会合を開いています。新潟中学から新制高校の新潟高校に編入という戦中、戦後の混乱期に学んだほぼ65才のおっさんばかり、卒業時に女子生徒が入って来たと言う不運な学年でした。

新潟玲瓏会は58回を記念して毎年5月18日に曜日に関係なく会合を開いています。東京は大体10～11月の金曜日開催しています。昨年は5月18日が丁度土曜日だったのと、皆が65才を迎え、老齢年金を貰える年になったので、村杉温泉の長生館で新潟、東京合同の玲瓏会を開きました。新潟20名東京20名の計40名の賑やかな宴会でした。懇親会に先立ちロビーで2時間に亘りそれぞれの近況報告をしましたが和気藹々のうちに、それぞれの第二の人生に対する考え方、生きざまが反映され、新しい力が湧いて来るように感じられました。5年に一度位こうして新潟、東京合同でやりたいものだと思っています。



毎回ご出席して下さる“暴力団長”
渡辺秀英先生即興の漢詩

60回同期会 健康医事ゼミナール

金山常吉(60回)



2月19日、マホロバマインズ三浦にて、小出直(60回)茅ヶ崎市民病院院長(内科・循環器科専門)においでいただき、平常あばれてばかりいる60回生を中心に高城英雄(60回)海外旅行開発(株)代表のアビオンクラブ主催で開かれ、奥様方も自分のカルテ持参で気安い会話ながら真剣なゼミでした。

今回は2回目で前は昨年6月7日、島田馨(60回)専売病院院長(免疫・血液専門・内科)がエイズ問題を含め喫煙と健康などの話しを中心に質疑が3時間に亘って交わされました。今回は老人病の周囲などのゼミが用意されているそうです。同窓生のよしみで直接名医にいろいろと相談できる催しです。

71回同期会 「さんばち会」の新年会

大竹純夫(71回)記

1月29日(水)在京「さんばち会」(38年卒、71回生)有志15名の新年会を兼ねた懇親会が寿司田有楽町ビル店で開かれた。在京の会は15年ほど前から声を掛け合って自然発生的な形でスタートした。今では日頃の無沙汰を補う場として旧交を温めている。この間メンバーは国内外への転勤や子育てなどで出入りはあるものの、集まり散じて気楽にくつろいだ雰囲気のとて続いている。この様な会を持てるのは、世話役的な存在の佐野、小飯塚、太田君らの働きもさることながら、それを支える女性陣の協力と活躍を見逃せない。今回も三沢、長谷川、高橋、小林、渡辺さんら往年のマドンナ達が声を掛け合って参加し、会に華を添えてくれた。また新たに大野、小林君も仲間に加わって盛り上がり一層楽しいものとなった。

「さんばち会」のメンバーも齢50才の大台に乗り、サラリーマン稼業の面々もセカンドステージを迎えて、これからは円熟味を加える年代に入る。健康は基本ベースとしても、それぞれがちょっぴり味付けをした生活を過ごせればこれに越したことはない。同窓同期のこの会は、砂糖も胡椒も隠し味も、みんな揃ったいわば調味料のような役割を果たして、味な会となっている。

<参加者>(アイウエオ順・敬称略)
五十嵐勤・太田裕・大野晋・小飯塚豊・小林範夫・佐野茂之・篠塚一博・堀川良吉・和田薫・大竹純夫・小林碧(旧姓茂野)・高橋則子(同藤田)・長谷川朝子(同山口)・三沢京子(同角田)・渡辺赫子(同林)

「75回同期会」

幹事：小田正基

暮れの12月12日、新宿高層ビルの一角で恒例の75期同期会が開かれました。会場となったお店は夜11時近くまでやっているため、開始時間までに来られない人も集まることができ最終的に18人の参加になりました。



おりしも厚生省の汚職が世間をにぎわしていたこともあり、官僚A氏を中心に、「その日の会費金、一万円なりをある目的を持ってA氏の銀行口座に振り込んだら、それは罪になるのか。」との話題から始まりました。続いて銀行員B氏による不良債権処理に関する諸問題、不動産業C氏によるマンション市場の動向。マスコミD氏による巨大メディアの経営状況について、電工マンE氏からは電磁波についての解説がありました。こうして挙げていくと、あたかも社会情勢に関する研究会のテーマのように聞こえます。しかしその実は、裏話あり、ほやきあり、うちの課のカワイコちゃんがどうしてこうして…(カワイコちゃんと…どうしてこうしてではありませんので念のため)ありで、楽しい会話がはずみました。気心知れた仲間同士ならではといえましょう。

私たち75回生は、今年40代最後の



年を迎えます。それぞれが社会の各分野で責任ある地位にある、頼もしく、カッコいいおじ様、おば様になりました(自画自賛!)。一方で、「残りの人生をどのように生きるか」を問われる年代になったことも事実です。「バリバリ仕事をこなしながらも、最愛のパートナーや、子供たちとの生活も大切に、より実り多い人生を送って欲しいもの。」そんな風に願いながら、おばさんシンデレラは、深夜の家路を急いだのでした。

一年に何度かは集まるという、活動の盛んな75回ですが、東京地区の同期全員に案内出来てないのがちょっと残念です。同期の皆さん、特に女性!(いつも萩野さんと有蘭の2人なんです)是非、ご参加ください。昔の仲間と飲むビールやワインはおいしいよ!!

有蘭順子(旧姓 黒崎)記

青山同窓会校歌に思う



瀬谷 誠 (50回)

百周年記念に名講演を後輩にされた斉藤英四郎名誉会長が、東京青山同窓会の席でいつかこう眩かれたのを偶々傍に居て之を聞き一瞬驚き且つ同感したことを私は今でもよく覚えている。

「青山同窓会の校歌は何と云っても“玲瓏の天あふぐ時 胸颯爽の意気に充ち”だよな、君ッ!“百里流れて信濃川”何となく女性的だな。すべからく我等青陵健児は質実剛健でなくちゃあ!」

東京青山同窓会ではいつも2つの校歌が歌われる。因みにどちらの校歌も作曲は大和田愛羅氏で作詞が相馬御風と堀口大学の両大家で異なるだけ。しかし自分が属した時代と校風は親しみと誇りと胸に響くものがあって他を寄せつけないのである。

私も含め高齢化の進む新中諸先輩諸氏は“玲瓏の天”と言い、男女共学の若き県高(ケンタカ)の諸兄弟は“百里流れて”と唱っている。その溝は決して埋まらない。益々深くなる気がする。

何も深刻に考える程の事ではない。たかが校歌である。されど校歌であって2つの校歌を併唱しないと新中(しんちゅう)と県高(けんたか)は結びつかないのである。

敗戦を契機に日本の社会は大きく変化し教育制度が変わり、日本の伝統史観が国際的自由個性尊重価値観にとって変わられた云々などと云う話しではないのでこの話しは之で話題を転ずる。

新中に青陵文庫という図書部委員によるクラブ活動があった。元新潟市長の川上喜八郎氏は45回卒で、その委員が相集い第1回の青陵文庫の会というミニ同窓会を持たれた。不幸にして市長が他界されこの会が中断。同期の福田賢弥氏が浜田敏衛(46回) 剣持栄一(47回)の両氏に呼び掛け2回3回が東京と新潟で交替で催され復活した。新大名誉教授渋谷武、松之山町長村山政光、新潟地裁渡辺洋の3氏は小生と同じ新中の50回卒の文庫委員。いつも15乃至25名の出席者あり、平成8年10月第4回の席上、

里見義忠(43回)、君島日出雄(44回)の両先輩から青陵文庫の会の活性化の為に之を新中から県高につないで若返りのご提案があった。

さて、ここに新潟高校図書館報53号(平成4/12/24)創立百周年特集第一部図書館百年の歩みという記録がある。全文は省略。之によると『図書館の設立時期ははっきりとは分からないが学校の創立とほぼ同時期であろう。当時は生徒寄宿舎の2階の談話室に間借りという形であったようである。その後大正期に渡辺校長により「大正文庫」が設立。大正11年落成したばかりの新校舍本館に移り、昭和4年昭和天皇ご即位の大典事業として「青陵文庫」が発足。当初150冊程であった蔵書も次第に増加し昭和16年には3000余冊になった。昭和18年には学徒動員の煽りを受け「青陵文庫閉鎖」。昭和20年敗戦。戦時中の疎開や占領軍の指令などで蔵書の大部分が消失廃棄。蔵書は500冊程度に減少。当時の磯校長はこの状況を嘆き図書館の復興を決意、資金集めに奔走昭和23年に開館に漕ぎつけ、昭和27年には1万冊。昭和29年学校火災。蔵書は灰塵。磯校長は後に“フェニックス”にならねばならないという言葉を残されたたとあるが悪条件下苦難6年遂に昭和35年図書館を完成。今日に至る』と記されている。

さて母校もいよいよ現在地に於いて全面改築が決まりその総合校舎が平成13年度に完成と聞く。そこで図書館はどんなものが出来るのであろうか。歴史の流れの中に之を見る想いで感慨深いものがある。

“玲瓏の天”を唱う仲間が今年また一人減った。彫刻家の高橋清兄(50回)である。新潟市庁舎に永遠のモニュメントを残して。同窓会の皆勤者だった。

村山政光兄(50回)は平成8年秋叙勲の栄を得られ、町長を辞し大棟山美術館々長となられた。そして私は財政大赤字の国の基金にぶらさがる年金生活者。音痴で“百里流れて”が未だよく唱えないでいる。

“しはぶけば氷雨となりぬ安吾の碑”昨秋松之山での拙句。村山兄はご存じ坂口安吾の甥に当たり、大棟山美術館は690年の村山家の美術名品を今に伝えている。

OB
訪問白鳥 十三
油絵家
(75回)

75回卒の白鳥十三(本名:高橋正)氏は新潟高校から早稲田大学商学部を経て渡欧、絵画の勉強をされました。定期的に東京、新潟、その他で個展を開かれており活発に活動されています。多彩な人材を擁する新潟高校の面目躍如と言うところですね。その穏やかなお人柄は作品にもよく現れていて、毎日激しい経済戦争(?)に追われている企業人にとってはほっとさせてもらえる作品達です。

個展の開催に寄せて書かれたご本人のメッセージと、美術誌の批評をご紹介します。

「自分の絵は、油絵の具よりもテンペラの方が向いていると思うことがあります。しかしテンペラを使うと妙に工芸的になる場合があるので使用していません。“緑陰”“樹と水”“花摘み”“雪”とテーマは変わりませんが、今しばらくの世界をふくらませていこうと考えています。」(銀座サエグサ画廊個展に寄せて) / 「独特の色彩と清澄な透明感を持つ画面。白鳥氏が描く花や人形のある静物、

日本やヨーロッパの風景、人物には、画家が注ぐ静かであるが忍耐強い視線が感じられる。木漏れ日が光と陰を作る“緑陰”、生命と色彩の交響というべき“樹と水”、さらに“花摘み”“雪”など、ここ数年作家が取り組んでいるテーマが展開されている。」(新美術新聞批評より)

機会があれば是非氏の作品に触れてみてください。そしてより一層のご活躍をお祈りいたします。(編)

連絡先:東京都渋谷区本町2-39-1

TEL. 03-3374-6585

【寄稿】

はるかなエンジョイ

大野晃(74回)

昨年、青山ラグークラブは、50周年を迎えた。毎日新聞のラグビー記者として20年となる私にとっては、原点の高校時代。あの頃の喜びを伝えたくて記者を続けているように思えてならない。喜ぶって何だろう。

今年3月、在京の青山ラグークラブ員が久々に同窓会を開いた。40代後半の10人余り。酒が進むうち青春がよみがえ

った。そのうち一人が言い出した。「俺たち自分で好きなようにラグビーしていたような気がすんれ」。それだ、と私には思えた。

関根先生や池田先生は、理論を持つ顧問指導者だったと思っている。しかし、あれをやれ、これをやれと強制することはなかった。強制は先輩であり、同輩である。いわばチーム内の生徒同士の強制であり、叱咤である。だから納得ずくで、だから、ズルした時は気がひけたんだ。面白いからラグビーをやったんだし、強くなりたい、勝ちたいから練習したんだ。自分でしたいことをしたんだ。

「エンジョイ・ラグビー」が、平尾主将率いる神戸製鋼の日本一7連覇でラグビー界に広がった。それは、日本スポーツ界にも風穴を開けた。オリンピックですら「楽しむために出る」と言う選手が少なくない。しかし、エンジョイの意味は正確に理解されているとは思えない。

「エンジョイ」は「自主、独立、自由」が根底になれば、解放的にはならない。新潟国体を前後する高揚の最中、「好きなようにやった」を思い出に残した青山ラグーは一つの奇跡だったのかもしれない。

住所リスト出力サービスのお知らせ 当同窓会では、皆さんからの情報を元に常に会員の住所録をコンピューターにて更新しております。「同期会をやってみたいけれど、皆の住所がわからない…。アイツは今どうしているんだろう?」などとお思いの方は事務局までお尋ね下さい。学年毎のリストを実費にてお届けいたします。

ご希望の学年と、リストか、ラベルかを明記し、右記の費用(切手にて)を同封の上、事務局までお送り下さい。

- 住所リスト
1学年/1500円分の切手
- 宛名ラベル
1学年/2000円分の切手

Wein- und Sektellerei
Franz Friedrich
Sinz von Saeufen

プロイセン王室醸造ワイン

プロイセン王子のワイン蔵に眠る琥珀色の逸品
日本のワイン通の方にだけ初めて御紹介します。

ワインハウスゲアハルト株式会社

〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1丁目7番4号 深津ビル3F
TEL.03-5388-6711 FAX.03-5388-6794

佐藤邦雄
(75回)

伝えたい想いを大切に…

私達は、印刷を通して皆様の想いを
“伝えること”を
仕事にしている会社です。

CHIYODA

PRINTING COMMUNICATION

千代田オフセット株式会社

〒101 東京都千代田区神田神保町1-50
TEL.03-3291-7500(代) FAX.03-3293-1589
E-mail pm7t-sn@asahi-net.or.jp

佐野栄二(83回)

講演会のお知らせ

平成9年4月23日(水)
p.m.6:00受付開始/p.m.6:30開始
東洋経済新報社9Fホール
(立食懇親会あり)
会費/5000円
(同窓会カードをお持ちの方は500円引き)
会場連絡先/03-3270-0681

同窓会年会費 自動引き落としのご案内

当同窓会では、振込に手間も手数料も
いらぬ「口座引き落とし」のシステムを
導入しております。ご希望の方は、事務局
までご一報下さるか、今回の講演会の受付
までお申し出下さいませ。(口座印をご持
参下さい。)



講師
栗林 貞一
(59回)
日本航空(株)
代表取締役
副社長

演題

「航空業界の最近の動き」
昭和8年1月10日新潟市生まれ。
昭和30年3月東京大学法学部卒業。運
輸省入省。53年、内閣参事官に outward
後、運輸政策局長、海上保安庁長官。
日本航空に入り平成5年より代表取締役
役員副社長。

講師
池 享 (77回)
一橋大学経済学部教授

演題

「毛利元就…巖島合戦勝利の秘密」
昭和25年生まれ。44年、新潟高校卒業、
一橋大学大学院を経て、市立大月短期
大学専任講師、新潟大学人文学部助
教授を歴任。現在一橋大学経済学部教授、
担当は日本経済史、専攻は日本中世史。
<編著書>
「大名領国制の研究」(校倉書房)
「クロニク戦国史」(共編 講談社)など

新人歓迎会のお知らせ

平成9年6月13日(金)夕刻より3月に
母校を卒業し胸ふくらませて新生活
を踏み出した新人達を囲む会です。
飲み且つ食べ、叱咤激励、新旧の
交流をお楽しみください。(詳細のご
案内は後日させていただきます)

平成9年6月13日(金)
午後6:30~
東洋経済ホール(9F)

学年幹事会のお知らせ

平成9年4月14日(月)p.m.6:30より
学年幹事会を行います。各学年幹
事は副幹事および同学年の有志を
同行の上ご参加ください。詳しく
は事務局まで。

(TEL/03-3378-6616)
平成9年4月14日(月)
午後6:30~
東洋経済ホール9F会議室

訃報

同期生・柴木君の死を悼む

渡辺毅之(72回)

小・中学校時代からの友人で、青山同期
の柴木鷹次君が、この2月に急逝した。51
才の若さであった。

彼は高校時代ラグビー部に所属し、国体
にも出場という、輝かしい運動歴を持つ。
成績も優秀で、新大の工学部・機械工学科
に進学、正に文武両道の青陵健児であっ

た。広島自動車関係の会社にエンジニア
として入社。組合の委員長として活躍した
が解雇の憂き目にあう。

妻子を広島に残して、単身大阪に行き、
ホテル住まいをしながらエンサイブリタニカ
のセールスマンとして働く。持ち前の頑張
りからめきめき頭角を現し、関西でトップセ
ールスマンとなり、社員60人ほどの東大阪
支店長となった。13、4年前の当時、300万
円もの給料を貰っていたと言う。しかし人
に使われる生活に飽き足らず、部下40名を

引き連れて学研社の教育資材の販売会社
を設立、大阪梅田でスタートした。東京青
山にも支店を開設、年商28億の会社に成長
させた。

人柄の良さから彼を慕う者が多く、私を
含めて大阪を訪れる同期生の多くが彼を訪
ね、親しく歓談し食事をともにした。そんな
彼が会社で一人で残業中、社長室で脳溢
血に見舞われ二度と帰らぬ人となった。
正に、企業戦士の壮絶な死であった。

心から哀悼の意を表したい。

頑張れ 75回生!!

石塚文雄・藤縄利勝・高橋正(白鳥十三)

萩野由里子・野崎茂・八木健・岩淵博

(野球部・剣道部・ラグビー部・空手部・硬式テニス部)

一同

平成8年度・会費納入者一覧

H8.10.1~H9.3.10現在まで

Table listing members and their contribution counts. Columns include member names and their respective counts. Includes a note: '以下、同窓会カードによる自動引落しの方'.

■年会費未納の方は、同封の振替用紙にてお振込下さい。(1口1000円、2口以上でお願いいたします。)

瀨谷 誠 (50回)
東京三鷹市牟礼三三三十七
(電) 0四二二四八八八六六

大野隆治 (67回)
ニュートキョウ東芝本社店
Tel. 03-3457-4073

(株)アルカディア
土地、建物など、不動産のご相談は
代表 渡辺毅之 (72回)
新潟市東中通1-86-35
Tel. 025-222-1739

飯田旅館
出張など、新潟でのお泊まりのご用は
代表 渡辺毅之 (72回)
新潟市東中通1-86-45
Tel. 025-222-3978

★小社刊・話題の書★
【豪華愛蔵画集】
ポツティチェリ
NHK「日曜美術館」にて、本書を紹介の予定/(4月) A3変型 ●本体 28000円
ペティ・フリーダンの 老いの泉 (上・下)
テレビ朝日「ニュース・ステーション」他、各紙誌で絶賛/ A5●本体各2427円
株式会社 西村書店
代表取締役 西村正徳 (72回)
東京 ☎03-3239-7671
新潟 ☎025-223-2388

J-CLUB Ltd.
広告・企画・制作
有限会社 ジェイ・クラブ
代表 日下部朋子 (82回)
港区南青山3-18-4-304
TEL.03-3423-3591